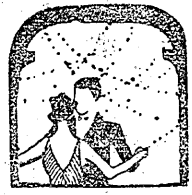


刊夕日七月二

# 常磐毎日新聞

定価 一紙全紙一円二角 拾五紙五円  
廣告料 五紙十文字一円 行金五折  
日曜祭日の日休刊  
発行所 常磐毎日新聞社  
印刷所 常磐毎日印刷株式会社



作創 (7)

## 或る女

村瀬 忠夫

色々理由がありましたもので、私今夜つばめで新  
京へ私ノ住み心地のよい  
土地を求めて旅立つの、  
お会ひしたいと思ひます  
の、如何でせう、××時  
まで驛の○○に來て呉  
れませんか、もう永久  
のお別れですわ、私はチ  
ブシー……………  
でも貴方から頂いたお人  
形さんは死ぬまで手離し  
ませんわ。  
誰か？  
あるがまゝに人生を見て  
あるがまゝに人生を肯定  
せよ、もしそれが堪へら  
れなくなつたら  
そのときは黙つて死ぬが  
よし！  
これが、これのみが勇者  
の道だ！  
もつとも強い者は沈黙す  
る  
すべての言葉は畢竟怯懦  
の看白だ  
沈黙のみが人間の唯一の  
徳だ  
……………

讀んで居る内、三枝子の  
心憎く思つたのか後を讀  
まず破り棄した。  
「私がよく話してあげる  
わ、美奈子さん安心しな  
さいよ」皮肉な獨言を言  
つた。  
窓の外にはサラサラ粉雪  
が降りそそいで冷たい風  
が何處からとなく入りこ  
む。

光一は三枝子と妹と三人  
で映畫を見に行く約束があ  
つたが、社へ遊びに來た宮

○明日の献立  
○朝味の汁：卵の花  
み  
小付 煮豆  
【晝】吉野煮（海老、木茸、  
青豆）  
小付 こんぶ卷  
【晚】清汁：鰯と若芽  
煮肴 魚 味噌煮  
生姜

田が無理矢理引張り出し  
彼を飲みこみ連れ出した。光  
一は三枝子を好かなかつた  
し、映畫見に行きたくなか  
つたが後でせめられるのが  
つらかつた。夫れ許りでな  
く妙に其の日に限つて家へ  
歸りたい―誰か待つて居  
る様な気がしてならなかつ  
た。然し宮田の前あつても  
そうはいかなかつた。  
最初行きつけのスタンド  
ミツキーへ行きウイスキー

六七杯續け様に飲んだ。面  
白く、時はアルコールの  
我々の神様だ」「飲め飲め」  
「俺も面白く無」と宮田  
は言ふ、君一話したバリヂ  
ヤンの小夜子さ、昨日行つ  
たら居ないのさ、何んでも  
新京か上海へ行つたか他の  
女給か言つて居たがね、面  
白くね、逃した小鳩だか  
ま程前に書から行つて暴れ  
たときあいつの寫眞もつし  
來たが―せめてこれのみか  
光一に見せたが酔つた目  
に分らない、―神ならぬ身  
の―夫れから何時間たつた  
か二人はグレン／＼と酔つ  
た電車のない白雪の往りを  
チツクザツクに肩に手をか  
けあつて歩いて居た。光一  
の頭に微かに誰かの呼び聲  
がささえる。―美奈子だ―  
お前今頃どうして―悲壯な  
聲をばり上げて自分に向か  
訴へんとしては消され又叫  
ばんとして何物かにさへぎ  
られ―微かにささる口  
唇―はつきり言へよ。一体  
お前今どうして居るんだ。  
「俺は今晩どうかして居るな  
あ宮田」「何にさ」「……」  
一人の男のポケットからこ  
ぼれ落ちたに異ひない一葉  
の寫眞、白雪に其姿を横へ  
た……捨つた人が気がつい  
たに違ひない。其の裏面に  
「あるがまゝに人生を見よ」  
と鉛筆で走り書きされてあ  
る文字に。  
(終り)

## 吸入用酸素純度99%

モノサシ  
マ ス  
ハカリ  
器量計  
体温計  
寒暖計  
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

## 關内藥局

電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス

## 有給社員募集

一、地方擴張ノ爲男女十數名募集ス  
固定給ノ外歩合アリ  
一、資格者 經驗ノ有無ニ不拘指導ス  
但シ誠實奮闘家ヲ望ム 希望者ハ  
午前中當出張所へ面談アラレタシ  
野村生命保險株式會社  
磐城出張所 手町長橋町四七  
主任 福島健之

## 急告

四日夜來の大風雪の爲弊社送電線をはじめ配電線引  
込線其他約八百餘件の事故發生致候當夜は寒風  
強く降雪やまず自轉車きかず歩行困難にて活動全く  
意の如くならず全員主力をつくして其の復舊に勉勵  
仕り候へ共不可抗力とはいへ遂々御迷惑相掛候儀誠  
に申譯無之恐縮に奉存候乍延引事情申上げ御了解御  
願ひ申度御詫び旁々御挨拶申上候 敬具  
昭和十一年二月六日

## 東部電力株式會社平營業所

## 四倉變電所

## 需要者各位

父祐孝一月二十八日腦溢血ニテ病  
臥中ノ處療養不相カナワズ六十三  
歳ヲ以テ 二月五日午後五時十八分  
永眠致候間此段御通知申上候也  
敬具

追而葬儀ハ二月八日午後二時自宅出棺菩提  
院ニ於テ佛式ニヨリ執行可致候  
昭和十一年二月六日

福島縣石城郡平町南町六拾番地

男 鈴木武男  
鈴木彌太郎  
鈴木幸太郎  
山崎郁子  
山添捨次郎  
友人總代

母ミチ子病氣の處療養不相叶八拾七  
歳の高齡を以て一月二十四日午前三  
時四分永眠致候御通知に代へ此段  
謹告仕候也  
追而葬儀 舊曆正月を遠慮し來る二月八日  
(舊正月十六日)午後一時三十分自宅出棺當町  
長橋町性源寺に於テ佛式により執行可致候  
昭和十一年二月六日  
福島縣平町舊城跡十二

親戚總代 孫 青沼鋒太郎  
青沼淡夫  
市原卯太郎  
神谷辰五郎

武之儀病氣の爲め東京駿河台病院に  
於て療養不叶相一月廿七日午後八時  
逝去致候舊正月に相當り候爲茶毘に  
付し遺骨を安置致し置き候故此段謹  
んで御通知申上候  
追而告別式は二月八日(舊正月十六日)午後二  
時自宅出棺古舘治町良善寺に於テ佛式に依り  
執行可仕候  
昭和十一年二月六日

親戚總代 嗣子 佐藤至孝  
佐藤とし  
若松武一郎

# 政友鈴木氏

## 公認と決定

### 昨夜發表さる

石城政友派より馬を陣頭に  
進め言論に文書に目下奮戦  
中の候補者鈴木辰三郎氏に  
對し昨日午後八時頃政友會  
本部より公認と決定した七  
日報告あつた之によつて世  
間の關心を喚び居た同派  
の公認問題は圓滿なる解決  
を見るに至つた

# 平商工會

## 肅選活動

ポスターを配る

平商工會は今次總選舉に當  
つて官民一致の肅正の實を  
擧げるため崇高な縣社子歟  
倉神社の遠景に狗犬を配し  
たポスターに「警神一票」  
「明るい日本」等の標語を明  
示して平町の各官公署方面  
並に一般に配布した

# 桃の節句に

## 學年展覽會

### 平第二校が

平第二小學校は來月三日に  
女子桃の節句に相應しい學  
年展覽會を催すことになつ  
たが題材左の如く決定した  
尙作品は新校舎に展覽し父  
兄の參觀に供し渡邊(圖書)  
草野(手工)常陸(書方)の二  
訓導が選に當り優秀作に賞  
品を授與すると

# 鐵道電話

## 殆んど復舊

倒壊電柱四百本

△清書、節句、桃の花△圖  
畫、自由思想畫、△手工、  
紙細工により、自由創案  
種牡牝馬検査 十一  
年度石城郡内國產種馬派遣  
並に種付牝馬検査は十四、  
五兩日平町で左記の如く各  
町村を分割して行ふ

# 磐女講堂に

## 小田氏の肖像畫

佐藤教諭快心の出來榮え

竣工近き磐女講堂は既報の  
如く壁仕上工事を残すのみ  
となり來る地久節からは舉  
式される運びとなつたが、  
同講堂建設費に寄附した好  
意者小田吉治氏に感謝の意  
を表する爲學校は縣下肖像  
畫界の第一人者と噂される  
福女美術教諭佐藤次郎氏に  
依頼し同氏の肖像畫を十五  
十圓に處された

# 國家的見地から

## 市内復舊後廻し

### 電話

加入者は御注意

幹線復活重要説

當地方空前の雪害で平町の  
市内電話線は數十ヶ所切斷  
された結果大事な仕事に差  
支へた加入者連は市内電話  
から復舊させて欲しいと平  
局へ矢の催促を發して來た  
が是に就いて佐藤平局長は

「今回の雪害で不可効力  
とは云へ加入者に色々御  
迷惑をかけました電話  
は國家の重要な通信機關  
でありますから何をかおへ  
て、復舊作業には東京

△十四日平 豊間 神谷  
草野 大浦 四倉 大野  
上小川 川前△十五日飯  
野 鹿島 赤井 平窪  
夏井 高久 好間 内郷

馬匹去勢 石城産馬  
蓄産組合は來る十七日平町  
團體事務所にて郡内一圓  
の馬匹去勢を行ふ

磐女同窓會 磐城高  
臨時委員會 等女學  
校樓丘會は來る十日午後一  
時より同校々長室で臨時委  
員會を開き落成式の打合其  
の他を行ふと

# 平裁判たより

△石城郡内郷村宮字町田坑  
夫長屋居住妨木縣芳賀郡市  
雨村生れ坑夫大島延夫(三七)  
は昨年七月二十日午前七時  
頃好間村大字北好間二瓶甲  
治方で飲酒泥酔の上居合せ  
た小田島重次を下駄で毆打  
し頭部に全治七週間の裂傷  
を與へ傷害罪で略式罰金三  
十圓に處された

# シネマ週報

△世界館 阪東好太郎 飯  
塚敏子主演「血煙荒神山」  
片岡千恵藏 大倉千代子  
主演「股旅新八景」林長二  
郎 川崎弘子主演「花婿  
の寢言」松竹トキキ  
「一九三六年迎春譜」松竹  
ニユース二三二号 料金  
三十錢(今七日より)  
△平館 「大菩薩峠」甲源  
流の巻 瀧口新太郎 花  
柳小菊主演「雛妓と坊ち  
やん」コロンビヤ喜劇「無  
軌道親爺坊やの巻」トキ  
キー漫畫「小鳥の裁判」朝  
日世界ニユース

# 平職業紹介所報告

回 人を求める方

- △旅館女中 卅才迄 給料五圓
- △女中 四十才迄 月給五圓
- △女中 四十才迄 給料面談
- △トラツク運轉手 三十才迄 月給四十圓外住宅
- △雜役 廿五才迄 月給五圓
- △豆腐賣子 卅才迄 給料七歩合
- △配達 十七才迄 月給四圓
- △飲食店雜役 廿才迄 月給五圓
- △粕入夫 卅才迄 月給十圓
- △小店員 廿才迄 月給五圓
- △魚業雜役 廿五才迄 月給十圓

△精米店員 廿才迄 月給五圓

△女工 廿才迄 月給七圓 通勤三十錢

△表具見習 廿才迄 年給三十圓

△染洗見習 十八才 給料小遣仕着

△人絹職工 三十才 高卒

△人絹女工 廿五才 産婆學卒

△紡績女工 十七才 尋卒

△トラツク助手 廿四才 尋卒

△女中 十九才 高卒

△集金人 四十六才 高卒

# 平町人事

回 結婚

△東京市王子區王子町九五  
〇足助重雄氏(三五)仲間  
町七五佐藤ユウさん(三〇)

△朝霧京府桃花洞九四村  
壽吉氏(三七)銀治町五會  
川ミツさん(二八)

回 死亡

△白銀町三五 當時小名濱  
町字上町一六武田龜松氏  
(五五)

# 吉田眼科醫院

平紺屋町 電話六八番  
醫學士 吉田久雄

磐城セメント會社特約店



磐城平町五丁目 電話九・九九番

□良品廉賣に勝る商略なし  
□確實敏捷は「久」の生命なり

耳鼻咽喉科専門

# 鈴木醫院

醫學士 鈴木 正男

平町田町 (電話五八番)  
藤田女學校前

自炊のお需めに應  
入院の便あり

# 責任究明に 平署が活動

## 原因は重大過失か

(昨報)湯本町濱海地内小野田炭礦専用路線引込線踏切附近の貨車覆轍事件に就き平署は直に柴司法主任が現場に急行現場を調査すると同時に同貨車の機關手大村七郎(五)並に操車保安住正積(三)の兩名を嚴重取調べた結果事故の原因が重大過失に依るものと推定柴司法主任は今早朝現場に再出張

# 雪害の市外電話線 九分通り復舊

### 救援隊一部引上げる

昨報二百餘名の救援工夫が大車輪で復舊作業に全力を擧げて居る平局の市外電話線は今七日午後三時江名豊間高久線を復舊僅かに水戸東京直通線を残して九分通り復舊したので今朝救援工夫の一部五十餘名は東京方面の救援に出發したが本日迄に判明した電柱被害は

電柱挫折	三一一本
同 傾倒	四一九本
同 傾斜	六五九本
支線損傷	一三一四條

線條切斷一〇〇九五ヶ所  
尙今回の被害應急工費は二萬圓、復舊工費は十萬

# 警察電話 一部復活

### 縣救援隊活躍

既報一稀有の吹雪に全滅した警察用電話は縣から救援隊を迎へて不眠不休の復舊工事に全力を擧げてゐるが本七日早朝迄に復舊を見たのは平一福島、湯本、綴線のみに全線の復舊には未だ至つて居らず尙全線の回復までに一二日を要する見込みである

# 吹雪

## 損害三十萬圓 郡下被害額

石城郡下の雪害は通信機關未整の爲詳細不明だが六日午後六時までに判明した分は逓信省關係に倒壊雪柱千餘本、この損害見積り約十二萬圓に達し五日夜から三日餘名の工夫を動員し目下一部を残して回復した、なほ東部電、常陸電、植田水電等の電柱倒壊、高壓線切斷その他を合すれば損害は尠く共三十萬圓に達すべく平署を中心とする警察電話も殆んど大部分不通となり修繕には一週間を要し選舉の白熱化する場合とて非常に困却してゐる

# 新年會

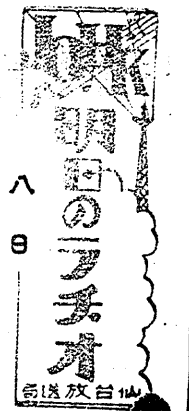
### 昨日マルトモで

經國聯盟磐城支部新年會は昨六日午後五時より平町マルトモホールで行はれ宴會に先だち吉田好間小學校長の世界に誇る日本精神に就いてと題する講演の内外支部長の挨拶半谷いほき社長の時局批判等あり盛會を極めた

# 一圓催促の 傷害致死

### けふ平支部で

田村郡大越村大字下大越字小久地三二二生れ當時内郷村宮字代六九佐川武治方棟割長屋居住日雇稼吉川幸太郎(四)が昨年十一月廿三日



今晚は晴明日も同様

# 今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- ラヂオ遊戯「動物ごっこ」
- 松本喜久代
- 後六、二五 基礎英語講座
- (九) 岡倉由三郎
- 後七、三〇 講演

# 總選舉間近に 特異な功勞者表彰

### 部落を救つた大和田氏

箕輪村大字大和字篠登城二番地大和田嘉明氏(三)は大和利區長同村消防小頭等の要職にあり過般の縣會議員選舉にさいしては肅正委員に任命された地方有力者であるが昨秋九月二十五日の選舉當日は偶々の豪風雨で同村を貫流する好間川は氾濫し遂に橋梁は流失してしまつた、ために大字高野から役場に向ふ選舉民七十五名は投票不能に陥り棄権の止むなき状態となつたがこの報を聞えた大和田氏は一策を案じ何處からか小舟一艘を引航してきてこの七十五名を無事投票場に運ばせたといふのである、最近に至りこの美談が判明し來るべき衆議院選舉に當り選舉功

# 待合は皆無だが 料理店は縣下第一

### 平町職業別調査

大平町を型づくる世帯の營業別は左記の如くであるが料理店が二六八軒で縣下のトップを切りカフェー遊戯場古物商は何れも縣下の第二位を占め藝妓屋又三九軒で第三位にあり平地方の如何に斯うした方面に異常に發展し居るかを明示してゐるが待合の皆無はちと淋しいです。

△料理店	二六八	△飲食	店二九二	△藝妓屋	三九
△カフェー	一五七	△印刷業	三一	△印刷業	一二
△人事周旋	二〇	△遊戯場	三四	△湯屋	三八
△質屋	六〇	△古物商	六五		

# 寂れる…… 鎌田遊廓

### 落莫をかこつ

平町鎌田五色遊廓は最近カフェー料理店のチト何うかと思はれる方面に進出して來た時勢に押されて六軒が三軒に減じ、それとも随分との不景氣に貸座敷業者は歎いてゐるが従つて娼妓數も九年未には寂しいながら二十七名ものものが昨年未の調査によると登録五名廢業十二名とあり現在二十名に減じて落莫をかこつてゐる

# 三管管内 藝妓酌婦數

### 年未現在平、植田、四倉三管

- 平 藝妓一四七 一九三〇
- 酌婦三二八 五六一九
- 植田 四倉

# 悲しみの 青沼家美譽

### 公益事業に寄附

平町長青沼錫太郎氏母堂故ミオ子媼の葬儀は明八日午後一時三十分自宅出棺長橋町性源寺に於て佛式に依り執行されるが六日青沼淡夫氏は故人の遺志により左記各團體に五百圓を寄附した

- △三百圓(小學校基本財産)
- △一百圓(平町社會事業助成會)
- △五十圓(平女子青年團)
- △五十圓(平婦人會)
- △五十圓(警城訓盲院)
- △五十圓(平國防婦人會)

# 明日の部

- 前七、〇〇 基礎ドイツ語講座 武内大造
- 前七、三〇 朝の修養「阿彌陀經」稻垣真我
- 前八、〇〇 婦人の時間「化粧品は家庭で出来るか」西澤勇志智
- 後八、〇〇 俚諺と新小唄 盛岡藝妓連
- 後九、〇〇 婦人講座「無限の向上」安藤謙助
- 後六、〇〇 子供の時間

「第二回なぜ座談會」  
柚木卯馬他  
後六、二五 講演「男鹿のナマング」元山高淑(實演)菅原徳藏他  
後七、三〇 舞臺劇「新海雪物語」松本幸四郎他  
東京明治座より  
後八、三〇 落語「大佛餅」蝶花樓馬樂  
後九、〇〇 時事解説「フランス内門の更迭その他」佐藤忠雄





# 見解の瓦解

(禁上級上)

悟道軒圓玉(作)  
丸尾至陽(書)

## 四二 遅れた萬之助

安藤侯を襲撃した浪士は多勢に取りまかれ深傷を負うて打ち倒れた、その中に吉野政助一人は氣力を回復して再び群り寄る共の人々を相手に戦ひ、この場を斬りぬけむとした、しかし次第々々に危地に入る。

こゝにお話一變して、この人々の同志内田萬之助はどうしてこの一擧におくれたか、これに付いては一場の悲劇があります。

内田がこの現場に遅参したについては種々な説がありますが私はその當時の古老に聞いたことをお話しします、内田は水戸の家臣で櫻田の義舉にも加盟いたし居つたが、その當時病に冒されて國もとに居つたために義舉に加はることが出来なかつた、その後國もとを脱して江戸に出て参り、芝愛宕下の俗に飯加藤といふ近江水口にて二萬五千石を領する加藤能登守の家來森九郎右衛門のもとに寄食いたした。九郎右衛門は妻しづと申すは萬之助の伯母です。これに娘があつておそれといひこの時十七、家中で小町といはれる程の美人内

田はこの折廿四歳、美男ではないが風采も上品で、それに劍術は無念庵の達人文學は藤田東湖の門人とて素養もある。九郎右衛門はこれに望みを囑した、伯母



のおしつは大層喜び伯母萬之助、お前何時までも浪人をしてをばとて出世をする事はなすまい、幸福は天から降るものでもなし、自分の運命は自分の力で開拓をしなければなりません。

下さい。知つての通り伯父様はお城使を勤めてゐる、これはお留守居役、事なか／＼骨／＼折れるお役だかお前ならばこのお役マツとめることも出来るであらうと申してゐるが、どんなもつだらうのう。

問はれて萬之助が

萬「お城使はお留守居役で諸家の留守居と交際いたしてお家のために働きます。これは世事に慣れて居るものならずばつとめることはなりません、私に田舎侍でございましてこの様なお役をつとめる程の資格もございませぬ、よつてこの儀は残念ながらおことはりいたします」

とかう言つた、これは安藤對馬守を討取り、幕府の改革を促す目的を抱き居る、さすればこの婿となればとて長くおそのと添ひとげることとはならぬ、また加藤能登守の家來が閣老を襲撃いたしたその徒黨の内に居つたとあつては加藤侯も迷惑する、また伯父も迷惑、それ故こゝ口實をもうけて断つたもつともお城使即ちお留守居は武士の中での通人ばかり、始終吉原であるとかまたその他の花柳界に他の大名の留守居と出逢ふて用事を遂する、現代で申せば外交官さういふわけ

で田舎侍ではつとまらぬと云つた、この時にすらりと襖を開いてそれへ出て来たのは森九郎右衛門。  
九「萬之助、貴様の申すところは道理のやうにも思はれる、田舎侍ではこの役はつとまらぬと申したがそれは昔のことだ、今は世の中が變つて居る、留守居共が集會すればとて藝妓に酌を取らせる絃歌の聲を聞きながら酒にたしむ時代はとくに過ぎ去つた、我々が集まれば銘々の主人の國もとの政事につき議論をたかばせ、また徳川家のおためにかうしては何うか、あつては何うかとそれらの協議を開く、さすれば貴様のやうな田舎侍がよろしい、通人といはれた昔の留守居は今用ゐられぬ世の中が變つたでな」

といはれて萬之助これには困つた。

夜 診 療

## 胃腸性病性

内科 胃腸病科  
花柳病科  
性病科  
皮膚科

### 専門

## 松村胃腸性病院

(番七〇一町南町平)

神佛葬具

# 造花

新川平 橋本屋

電話 三六一

花環 盛花 久壽玉 御弔燈 寶明燈

靈柩自動車

外科 内臓外科 院長 安齋 徹

## 光線科

新設

産婦人科 醫學士 黒澤 廣

△入院隨意△

平明田町 安齋醫院

電話 四七五

お年始のお客様に

## 魚清のサーブ

さしみと御飯 吸物おしんこ付

二十五錢 五十せん 八十せん

魚折詰御飯付

二拾	五錢	三十五錢
三拾	五錢	四十五錢
四拾	五錢	五十五錢
五拾	五錢	六十五錢

角力場の御食事に  
すし折詰

魚折詰御飯付

三拾 三十五錢 四十五錢 五十五錢

込合ますから何卒来る  
九日まで御注文下さる様  
御願致します

## 魚清食堂

平二番警察署通り  
電話 六三三